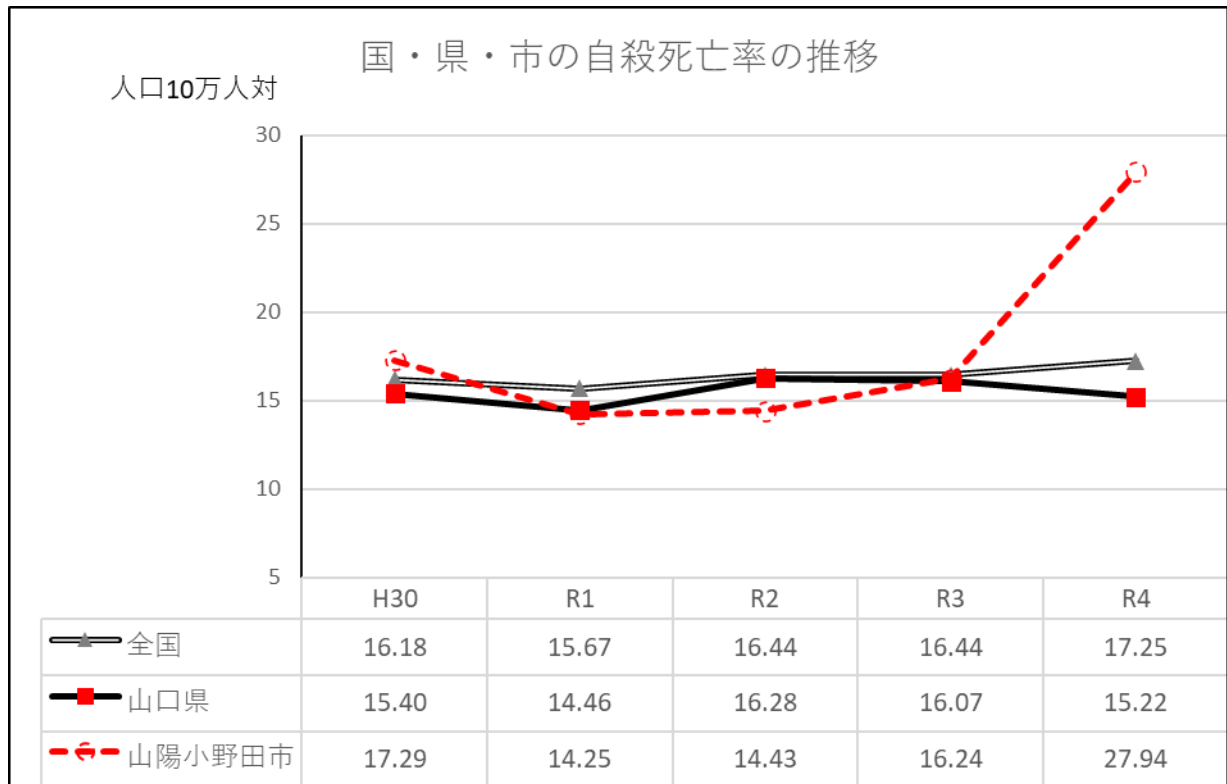


自殺対策について

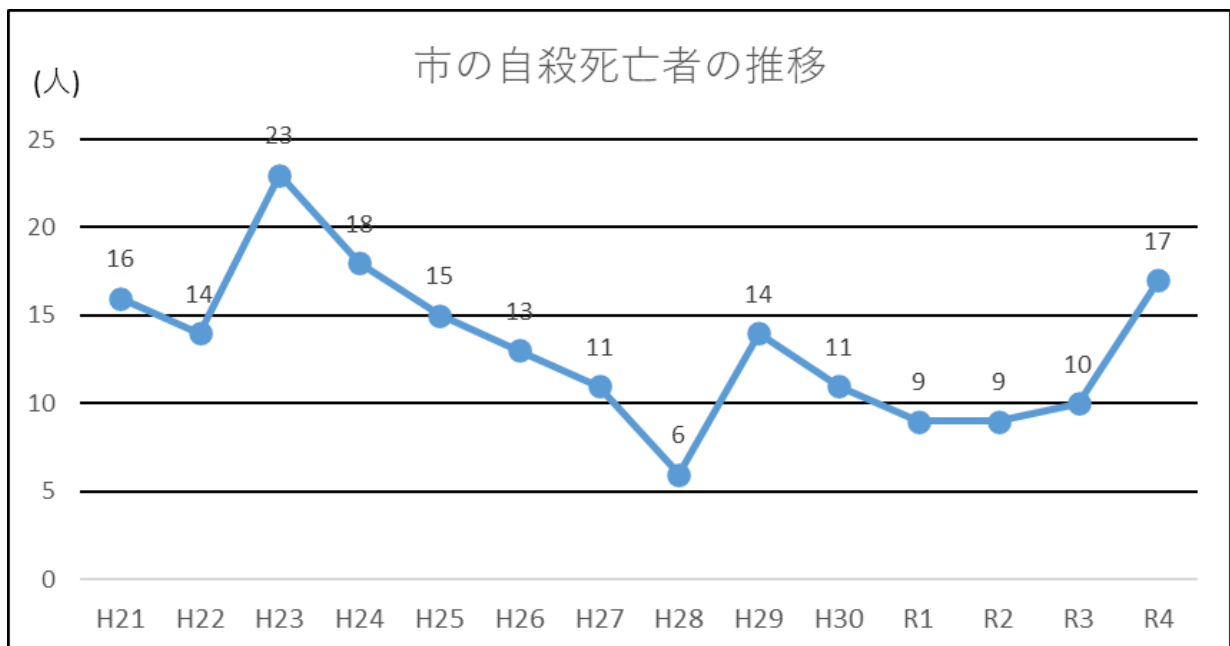
1 自殺の現状

①国・県・市の自殺死亡率の推移



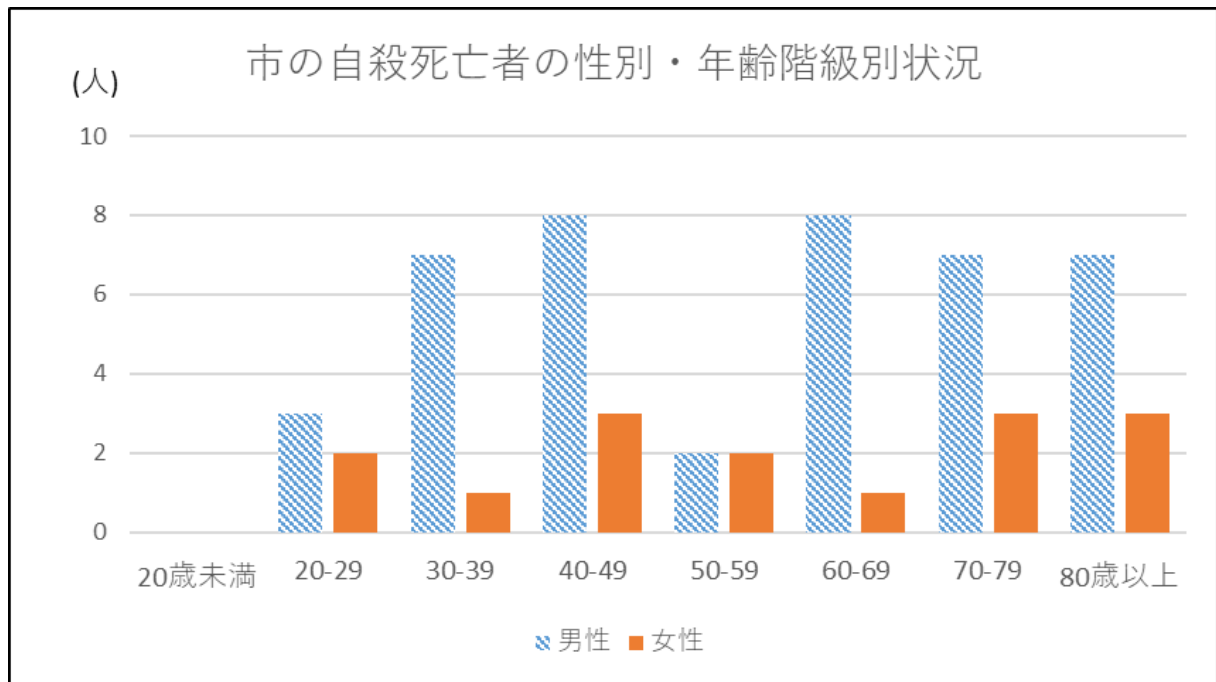
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

②本市の自殺死亡者の推移



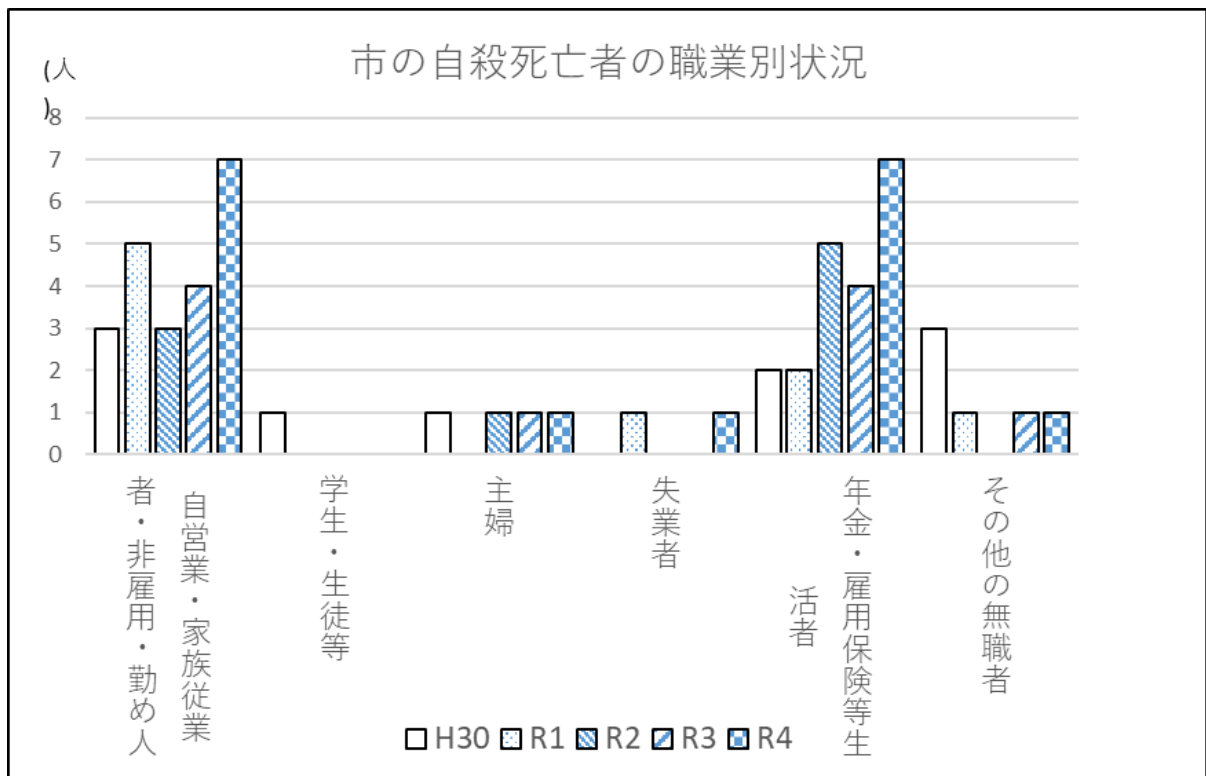
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

③本市の性別・年齢階級別状況（平成30年（2018年）から令和4年（2022年）までの合計）



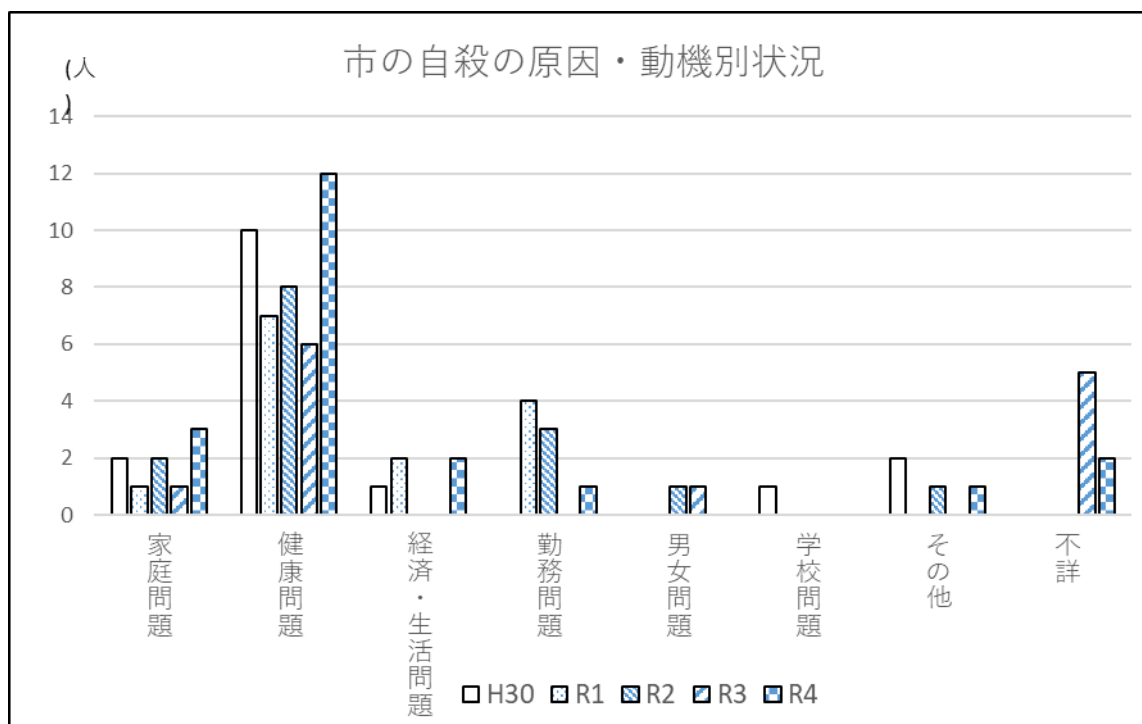
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

④本市の自殺死亡者の職業別状況



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

⑤本市の自殺の原因・動機別状況



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

⑥地域自殺実態プロフィール* 主な自殺の特徴

(特別集計 平成29年(2017年)～令和3年(2021年)合計)

区分	自殺者数(人)	割合(%)	自殺死亡率* (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位 男性60歳以上無職同居	9	17.0%	34.5	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺
2位 男性60歳以上無職独居	8	15.1%	141.8	失業(退職)+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺
3位 男性40～59歳有職同居	7	13.2%	24.2	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
4位 女性60歳以上無職独居	5	9.4%	36.3	死別・離別+身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
5位 女性20～39歳有職同居	5	9.4%	35.4	離婚の悩み→非正規雇用→生活苦+子育ての悩み→うつ状態→自殺

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

・順位は自殺者数の多い順で、自殺者数が同数の場合は自殺死亡率の高い順とした。

* 自殺死亡率の算出に用いた人口(母数)は、総務省「令和2年国勢調査」就業状態等基本集計を基にJSCPにて推計した。

** 「背景にある主な自殺の危機経路」は、ライフリンク「自殺実態白書2013」を参考に推定した。自殺者の特性別に見て代表的と考えられる経路の一例を示しており、記載の経路が唯一のものではない。

2 自殺対策事業実績

(1) 普及啓発

①普及啓発事業

- ・ホームページの充実

「こころの相談窓口」、「自殺対策に関する情報」、「こころの健康」に関する情報ページは随時情報の追加を行った。

- ・広報への掲載
- ・FMスマイルウェブで自殺予防についてPRを実施
- ・中央図書館、厚狭図書館で自殺予防についてパネル展示を実施

②出前講座

年 度	H29	H30	R1	R2	R3
回数 (回)	2	2	7	0	1
受講人数 (人)	56	32	240	0	7

(2) 相談窓口 (随時)

年 度	H29	H30	R1	R2	R3
電話 (人)	—	3	6	9	10
来所 (人)	—	3	1	0	1

(3) 人材育成

①こころのサポーター養成講座

<実施状況>

年 度	H29	H30	R1	R2	R3
受講人数 (人)	57			29	72

※R3年度末時点でこころのサポーターは 689 名

②こころのサポーター支援講座

<実施状況>

年 度	H29	H30	R1	R2	R3
実施回数 (数)		1	2	1	1
参加延人数 (人)		10	50	54	31

(4) 関係機関等との連携強化

①妊産婦・乳幼児

産後うつ等、産後の体調不良や育児不安のある方に対して、「子育て世代包括支援センター」を中心に、関係機関と連携を図りながら支援を行った。

②若年層対策事業

養護教諭研修会で連携や出前講座について説明し連携強化を行った。

③働き世代

メンタルヘルス対策が推進できるように職域に働きかけ、出前講座を行った。

【参考】

山口県精神保健福祉センター

	R4（件）	備考
心の健康電話相談（月～金）	2896	心の健康全般に関する電話相談
いのちの情報ダイヤル“絆”（火・金）	803	「生きることがつらい」と悩んでいる方やそのご家族の方の電話相談

※自殺の相談を含めた、心の健康全般の相談件数になっていることに留意